

ものものしい警戒

デマも飛ぶ喧騒の街

水

侯

“漁民騒動”の一夜があけて三日水保市では早速暴力摘発に立ちあがった原警察の実況検分が行なわれたが、メチャメチャに破壊された工場内現場は予想以上に大規模だった騒動のもようを伝えている。水保側問題は冷静している市民からも理性をなくした漁民の行動を批判され、工場側も漁民の反省がない限り今後話し合いには応じられないとカンカン。このため工場と漁民の険悪な関係はさらにミソを深めて余毒さめぬ街を重苦しい空気がおし包んでいる。

▽この朝、工場の各門には警棒、鉄力ブト姿の警官隊が張り込むものものしさ。実況検分は午前八時から山田熊地検八代支隊長立ち会いで原警本部と水保署の協議、課員五十人が出勤して本事務所、総合研究室など十八施設について行なった。

翌片手に又千する係員もあきれた大規模。前夜の騒動で頭になお十日の傷を負った柿山水保署長も水ウタイ等であつてきたが、若い警備たちは暴力への憤しさを眼え、いまさらながら

ら群衆心理の恐ろしさを思い知らされていた。

工場内はあと片付けもまだされていない。ちょうど文化の日のことで広い事務所内はランドウ。かけつけた数人の職員たちが周囲の恐怖を語り合っていたが、このまま泣き寝入りしなければならぬのか、暴力行使は最終的に取り締まって欲しい、と情願も強い。また、こんなことがあれば警備法も必要だ、と語る。工場長のイスとソファには重コンが付いたままもつとむくむくのはタイプ等

一台七十三万円のテレタイプ二台、タイプ七台、二千五百円電子計算機(四十万円)がぶつこわれ、はたして逃げたタイピストのハイヒールが、飛散したタイプ等とともに床にころがっていた。

このほか電話機では現金七千六百円とカメラ二台がなくなったとの目撃が出た。これら工場の損害ははる大な額にのぼるものとみられ、四日から本署で調査するが、被害額は数千万円に達するのではないかと工務部はいつている。

▽いっぽう一般市民はこんどの事件について、いままでも漁民には同情していたが、理由が何であろうとこれはひとずかる、というのが共通した意見。

三日も一騒動が予想されて街には不気味な空気がみなぎったが幸い騒ぎも起らなかった。しかし恐怖の街には漁民が水源を止める、土のうで排水溝をふさぎ、空水を市街地へ逆流させるといったデマも風を飛んで戦々然と、現場の水保側はますます不信と警戒を深めている。